



株式会社 小泉鉄工



天塩の恵み。
一次産業とものづくりが
ともに輝く。

地域の「困った!」を解決する
コンビニ的存在。

「困った」と言われれば24時間365日駆けつけるコンビニ的存在として、地元の厚い信頼を得ています。地元・士別を流れる天塩川周辺の養殖業者の悩みにも誠実に対応する姿勢で、地元の食産業へ参入するチャンスをものじりました。

株式会社 小泉鉄工

本社 士別市南町東4区1876-12
TEL 0165-23-1271
URL <http://business3.plala.or.jp/koizumi/>
主要事業 1983年創業。下水処理施設の維持管理や産業用機器の設計・製作などのほか、サケ頭部打撃装置、貝類洗浄装置の製造を行っている。工場などの24時間対応や多様な顧客ニーズに応えるきめ細かなサービスで地元の信頼を築いている。

代表取締役 野田 真澄



鮭の人工ふ化を支える機械を開発

「羊のまち」として知られる士別市で30年の歴史を刻む小泉鉄工。下水処理施設の維持管理や産業用機器の設計・製作などを手がける同社が食の分野へ踏み出したのは10年ほど前のことだった。

鮭の遡上が最盛期を迎える秋。道内各地のさけますふ化場では捕獲したメスの鮭のお腹を割いて卵を取り出し、オスの精子をかける。確実に受精させるためには、生きた卵を採取することが絶対条件だ。そこで鮭の頭部をハンマーで叩いて仮死状態にするのだが、手作業だと強く叩き過ぎて鮭が死んでしまったり、叩き方が弱いと鮭が暴れてお腹を割く際に卵を傷つけてしまうことが多い。均一な叩き方で確実に鮭を仮死状態にできないか—そんな声に応じて開発したのが、鮭の頭部打撃装置だった。まちまちな大きさの鮭を一匹ずつ頭の向きを揃え、ハンマーの位置まで誘導するしくみを作るところに苦労したが、士別市の新製品開発事業第1号として助成を受け、2004年に製品化に成功。現在は増毛のさけますふ化場に導入されている。「導入以後はふ化率がアップしたと聞き、機械化の手応えを実感しました。採卵後の鮭は様々な商品に加工されますが、作業効率が上がって生産量も増え、留萌管内の特産品市場にも寄与できたのではと思っています。」と代表取締役の野田氏は語る。さらにふ化水槽に沈殿したエサの食べ残しやフンを掃除する残餌清掃装置も

開発。道内から東北まで8カ所のさけますふ化場に導入され、人工ふ化を下支えている。

天塩川が結んだシジミとの縁

それにしても、士別は鮭の産地でもないのになぜ?疑問を解くカギは「川」だった。「士別は天塩川の最上流にある町。鮭の稚魚は士別の山の恵みをたっぷり含んだ川の流れに乗って海へ出て、数年後に再び戻ってきます。母なる川の源に暮らす私たちが、鮭のためにできることを考える。それは自然なことでした。」山と海を結んで生命を育む天塩川はその後、士別から250km下った天塩町と小泉鉄工を結びつけることになる。

天塩のシジミは河川水と海水が交わる天塩川下流域で育つ。通常のシジミが5~6年で水揚げされるところを、天塩のシジミは7~13年かけて育てられるため、粒が大きく濃厚な味わいが特長。しかし成育中に底泥の鉄分がシジミの表面に付着してしまい、赤錆色に汚れてしまう難点がある。「見た目が悪いと商品価値が下がって売り物にならない。女性従業員が選別から研磨まで手作業で行っているが、なんとか機械化できないか」と北るもい漁業協同組合から相談を受け、細かいパイプレーションを加えた水で洗浄する機械を開発した。「天塩のシジミは市場に出るまでに時間がかかる上、近年の河川環境の変化によって漁獲量も少なくなっている。一生懸命シジミを獲った漁師さんのために、貴重なシジミ

ミを適正な価格で市場に出せるようにしたかったし、女性従業員の皆さんを過酷な手作業から解放してあげたかったのです。」野田社長の目に、働く人への慈しみが浮かんだ。

第一次産業の労働力確保のために

地元の農家に生まれた野田社長は、毎日畑に立つ両親の姿を見て育った。「だから汗を流して働く人の苦労はもちろん、自然からいただく恵みの尊さもよくわかる。大都市と違って士別のような地方都市では、第一次産業の高齢化と労働力不足は切実な問題です。作業を効率化できる機械を開発することで高齢労働者の負担を軽くすると同時に、ここで生まれ育った若い人たちが農業や漁業、畜産業に従事しやすい環境を整える一助になれば。鮭の頭を叩く、シジミを洗うなど、一見単純だけど今まで機械化されていなかった作業に目を向けると、第一次産業と製造業がともに前進できるヒントが見えてくるものです。」

本業である下水処理施設の管理も24時間365日体制で担い、社長自ら休日も休まず出勤して対応にあたる。製造ラインの管理業務を請け負う工場には社員を派遣し、現場のニーズを把握して新しい提案に役立てるほか、農機具の修繕といった近隣農家の小さな頼み事も引き受ける。地元で働く人の役に立ちたい—その思いは天塩川の流れのごとく、脈々と流れ続ける。